

去年の十月二十日、台風二十三号が近畿を直撃しました。その時、風は強く家がギシギシとしていました。夕方から停電になり、次の朝、周りが海になっていました。一晩を過ごしました。ました。家族は全員大丈夫と思いましたが、はとしました。おじいちゃん、体が不自由なので呼吸器が必要です。でも電気がないので、呼吸ができません。バッテリーはあつた。持つのは一時間、とても心配になりました。その中、ぼくたち家族が不安になつていて、姿も見て、近所の人たちが動いてくれました。防災無線でバッテリーを持っている人はいますかと呼びかけたくれました。みんな自分のことだけで精一杯の時にやさしくしてくれ、さうさぐバツテリーが切れてしまうなという時、近所の人を持つていと聞いてほつしました。ぼくは自分たちだけで生きていく人ではないとつくづく思いました。おじいちゃん、助けかり

ました。これは、一生忘れません。
このことはそれからたくさん感じました。
鳥取や岡山の人など、遠くから来てくれた人
たちは自分のことのように片付けをしてくれ
ました。ぼくが通っている小坂小学校はそん
なボランティアの人のおかげでたった一週間
で始まりました。学校に行くとき、たくさん
支援物資が届きました。中でも、ぞうきんには
「がんばれ」「ついで」などのはげましの
言葉が書いてありました。ぼくたちは顔も見て
いない人からの勇気をもりました。
あれから一年、前と同じように楽しく過
していきます。でも前とちがうことがあります。
ぼくの気持ちです。もし、他のところ
が、あつたり、ぼくは、自分からボラン
タリーに行きたいです。それは行か
なければという気持ちではなく、
行きたいという気持ちから
です。去年ぼくたちが感じた気持ちを
困って
いる人たちに感じさせてあげたい、
そう思え
るようになったからです。